

研究代表者 所属・職：教育・心理学部・教授

氏 名：中嶋 理香

研究課題名：知多地域の言語聴覚療法実施状況調査と医療・福祉・教育・保健専門職における言語聴覚士の職域認知度と連携経験

#### 研究の概要

研究 1 知多地域の言語聴覚療法を実施している医療機関に対して、「知多圏域版 小児言語聴覚療法実施施設一覧」の作成に向けた調査と、言語聴覚療法実施施設に対して、掲載依頼及び掲載内容の確認を行った。

研究 2 教育・保育・保健領域の子どもに携わる専門職に対して、言語聴覚療法の職域についての認識と言語聴覚士との連携経験について調査を実施した。

#### 達成状況・成果内容

研究 1 言語聴覚士会が会員向けに発行している名簿より知多圏域で小児を対象とした言語聴覚療法を実施している施設は、23施設であった。この23施設に対して文書にて一覧表に掲載する目的で、言語聴覚療法実施内容および受診方法についての情報公開の可否をたずねた。結果 12施設から回答が得られた。これらの内容を掲載した一覧表を100部作製し、知多圏域5市5町の教育委員会、こども・家庭の福祉業務を実施する窓口、保健センターに送付した。

研究 2 知多圏域の5市5町には、小学校78校、保育園96園、保健センター10施設があり、公立保育園、公立小学校、保健センターに勤務する専門職（医師、保健師、保育士、教員、心理職、行政職）を対象とした結果、総数453通の調査票を送付した。回収率32.5%（147通/453通）であった。回答者の内訳は、経験年数が10年以上の保育士46.3%、教師34.7%、保健師15.6%であった。

##### a. 職域認知

言語聴覚士の職域は、ことばの発達の問題が92.7%、吃音が93.7%、発音が97.9%であり、次いで乳幼児期の摂食嚥下機能の問題に対応する領域であった。したがって、言語聴覚士の仕事に対して正しい認識を持っているものの、子どもの年齢に応じた言葉でのコミュニケーションを行う上で支障となりうる言語の表出面（言葉の遅れ、発音、吃音）の領域についての専門領域に限定されおり、コミュニケーション領域に特化した職域認知であった。言い換えると、言語機能の3領域であるコミュニケーション・思考・行動制御のうち、思考や行動制御の領域に対する職域認知度は低いといえた。

##### b. 言語聴覚士との連携経験

言語聴覚士との連携経験をしたことがあるとする回答は、46.6%であり、これに対して言語聴覚士以外の専門職との連携経験は、78.6%であった。また、回答者が管轄する地域での言語聴覚療法の実施施設及びその内容の情報の有無については、「全く知らない」49.0%と、「最低限の情報を持っている」47.6%「よく知っている」2.7%と、2分した回答であった。言語聴覚士の職域に対する知識をもつ割合が90%を超えていたことから、知識をもちながらも地域資源の情報が伝わっていない現状が見えた。

##### c. 日頃、思うこと

回答者が日頃の業務で感じることについての自由記述をテキストマイニング(Kh Coder;樋口 2022)を用いて分析した結果4つのキーワードが抽出できた。それらは、支援、相談、言語、指導であった。通常とは異なる対応の子どもに対して、特別な支援が必要であり、その子どもについて気軽に相談できる

機関を必要だと感じていた。加えて、外国籍の子どもへの日本語指導が難しいと感じていた。

まとめ

地域連携型助成事業を通じて、小児を対象とした言語聴覚療法実施施設一覧を作成し、知多圏域の保育・教育・保健機関に配布した。さらに、言語聴覚療法の職域が子どもを対象とする専門職に広く理解されていることを明らかにできた。言語の機能は、コミュニケーションだけでなく、行動や思考もあり、現在、小児を対象とする言語聴覚士は、子どもの行動や思考の発達支援に大きな役割を担っている。これらを踏まえた言語聴覚療法の必要性を専門職に伝え、支援の輪を広げる必要があるだろう。

「ふつうのくらしのしあわせ」を目指す本学の役割として、知多圏域における保育・教育・保健領域と医療との連携は進んでいないことや各専門職が気軽に相談できるリソースセンター的機能を担うことが求められていると思われた。本学は、健康科学部、看護学部、国際福祉開発学部、教育・心理学部、社会福祉学部には豊かな人材がいることを踏まえると学部を超えたリソースセンターとしての役割を担うことができると思われた。

保育・教育・保健担当部署に配布した言語聴覚療法施設一覧

知多地域の言語聴覚療法提供施設一覧			※1は既に録音、音声録音機器、音声、ADHD、LDなど種別、難聴等、始発期以降の発症に要すること										
施設名	対応方法	電話番号	保育施設	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学	専門学校	職業訓練校	福祉施設	その他	備考
児童発達支援センター 華南児童発達支援センター	入籍後に相談	052-337-0961											入籍後に合わせて対応。
株式会社 児童発達支援センター くまがたこども発達センター	初年度は、要約内容は、 電話予約	052-402-3972	○	○	○	○	○	○	○	○			
医療法人メディライフ あみりこクリニック (リハビリテーション科)	初年度は予約のみ 職員対応は予約制なし 要電話予約	0561-28-0760	○	○	○	○	○	○	○	○			日本語療育施設 と連携して 対応すること が希望。
(医)中野会 こども発達支援 センター	電話予約	0542-867-0818	○	○	○	○	○	○	○	○			
すまがたこども発達センター あみりこクリニック (リハビリテーション科)	医師による診察が必要 主治医からの紹介状が必要 初年度は、予約制 小児科を併設して 対応可能	0561-25-0391	○	○	○	○	○	○	○	○			
医療法人 研和会 (リハビリテーション科)	年費の有無あり (小児科入学期)	0561-772-1352	○	○	○	○	○	○	○	○			
こども発達支援 センター あみりこクリニック	電話予約、詳細は問い合わせ 要予約制あり、こども発達支援 センターまで	0542-867-0817	○	○	○	○	○	○	○	○			
医療法人マックス まこやクリニック あみりこクリニック	予約制、要予約制にては、 要電話予約	0561-25-2743	○	○	○	○	○	○	○	○			
医療法人マックス まこやクリニック あみりこクリニック	電話予約	0561-25-2743	○	○	○	○	○	○	○	○			
医療法人マックス まこやクリニック あみりこクリニック	当センター利用又は 申請状のみ	0561-25-2743	○	○	○	○	○	○	○	○			